



国鉄新潟

NO. 955
 発行
 2018年
 8月22日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 加藤 秀夫
 編集責任者
 教 宣 部

全国大会特集号



第37回定期全国大会の特集号です。一般討論の発言のついでです。

客貨一体の闘いを 取り組んでいく

18春闘、貨物のペアリを回避するための取り組みを強化した。JR各社の回



答状況は格差が大きくなった。職場からの春闘の取り組み、ストを背景とした春闘の取り組みが、貨物社員から多くの不満がある。国労運動は民主主義はどこへいったのか。職場から闘つて体制をつくっていくこと。ストを要請し客貨一体の闘い、運動を取り組んでいく。

労基署指導票を交付

労働条件改善の闘い、清掃の薬剤が強力になり汚れやカビが落ちる。しかし今までより作業時分が長くなった。安全対策について説明がない。安全に

ついて清掃剤の取り扱いについての説明を要請した。説明会では清掃に使う薬剤の内容は企業秘密なので公表できないとあつた。労基署へ申告したら労働安全法で指導できると言つていた。労基署から4点についても指導票が交付された。今後についても調査新しい清掃剤について調査していく。これによってグループ社員が国労の見方について変わってきた。これによって労働条件改善へ取り組みを進めていく。組織拡大、委託会社への激励交流を実施した。

スト権確立投票

スト権確立投票は出席代議員全員が賛成し確立しました。



団交で正社員化を要求 発令があつた

アスベスト裁判に対する団体署名が多く集約された。労災認定を勝ち取る。全国の仲間の支援に御礼を。

憲法9条の署名、闘いについて政府は改憲を進めている。改憲阻止の闘いを強化していく。国会を包囲し集会の開催や行動を展開する。



労働法の改悪など許さない全国の闘いの展開。職場に導入させない。残業代0を導入させない。労働条件改善の闘い、厳しい労働環境だ。隙間の無い作業ダイヤになっている。職場のオルグを実施。詰所へのカメラ設置、過密労働を認めさせない闘い、適正な人員配置を求めていく。

JRの関連企業の作業で遠隔操作に不安、不満などが出されている。関連会社では地域限定社員として配属された。正社員化を求めている。

団交で正社員化を要求し発令があつた。多くの労働者へも取り組みを進めいく。

統一要求では難しい

新幹線台車の亀裂について、JR西日本は再発防止策を出したばかりに事故が発生した。運行業務担当の社員について西日本と東海との情報の共有が少ない。さらに強化していくこと。

温度差があること。安全を守るためには国労組合員がしっかりと集約していくこと。

組織のあり方、ストライキ、戦術について議論があつたが統一要求では難しい。世論形成が必要だ。JR各社で格差がある。経営状況など違つているので統一要求は破綻しているのではないが。

本部に対して組織のあり方を具体的に議論していくこと。各JRの経営実態についてどうなのか。



第一日目は7名の代議員の発言で終了しその後、財政小委員会が開催されました。

第二日目は9時間開会、代議員44名中43名の出席を確認しました。修正動議の提出はありませんでした。裏面から二日目がスタートします。



放射線・まだ不安

東日本大震災から7年が経過したが、まだ厳しい状況が続いている。放射線についてまだ不安がある。住宅など含め被災者への救済が終わっていないが実態は改善されていない。常磐線が復旧し運転が再開された。2019年までに全体の復旧工事が進むが線量の高い環境での作業となる。

他労組では、うわべだけの労働運動やストがあった。労働する上での安全について会社と議論している。空間線量について線量計の管理、モニタリングの増設など管理させる。

労働者の血液検査の実施、関連会社も含めて実施する。健康管理を徹底し強化すること。

放射線の被害について学習会を開催した。不安を共有していく被災地本として取り組みの強化など全国へ発信し原発の再稼働の反対を訴えて

いく。毎年開催される福島交流を今年も開催して欲しい。組織拡大は2月から3月にかけてオルグを展開した。春闘の取り組みで組織の強化・拡大を進め総対話運動を実施した。オルグを通じて職場では、意見を聞いて欲しいといった、労働組合の必要性を感じた。国労運動を訴えた。



代表選挙に国労が立候補したが落選した。しかし他労組から支持があった。労働委員に選出された。

要求をつくること、未加入者へ訴え一緒に要求作りをした。他労組との対話行動の展開から国労への信頼が深まる。

会社へ自分の要求が訴えられたこと。組織拡大について財政面の充実を。必ず結果を出していくこと。

地域の共同行動 アンケート調査の実施

国労の職場活動、地域での共同行動の展開。利用者の要求・要望のアンケート調査を実施した。会社は効率化を進め駅の無人化が進んでいる。アンケート調査は272通の返信があり、この結果について運輸局へ要請した。そして運輸局がJR側へ要請した。全体の協力、共同行動を展開していく。

車両故障が発生している。検査周期の延伸で合理化され、その原因で多く発生している。JR30年検証の集会を開催し、安全・安定輸送について訴えてきた。

安全問題での利用者アンケートについても150通返信が来た。JRを問うシンポの開催や運輸局への要請

行動も実施した。国労は単一組織として全国へ発信していかなければならない。



単一組織として 運動を進める

春闘の要求額の設定について、JR各社、労働条件の格差はあるが統一要求で闘うこと。18春闘では学習会の開催やストを含む闘いを取り組んできた。貨物の総行動の実施、客貨一体の行動を取り組んだ。街頭宣伝行動を実施した。

スト基金の規約改正について反対だ。目的外使用は認めない。

レクでは、ボーリング大会を開催し組合員の交流を深めた。組織形態は、国労は全国単一組織として運動を進めていくこと。



編集後記

全国大会の特集を3号にわたって企画しました。代議員の発言内容を中心に編集しました。読んでいただけただでしょうか。組合員の皆さんからの情報をお寄せください。よろしくお祈りします。

レクレーションで「ボーリング大会」を開催しましたが参加人数が少なかったため、次回も企画し早めに準備していきたいと考えています。「地本ボーリング大会」を来期も開催したいと思います。9月の地本大会で新しく執行体制が確立します。新執行体制での開催になります。



エリア本部のマラソン大会が11月10日(土)に開催されます。多くの組合員の参加をお願いします。まだ夏本番ですが、秋の行事のお知らせでした。ピントきませぬね。



国労東日本本部 マラソン大会

11月10日(土)

